ひなどり

園だより　１１月号
令和５年１１月２日
新潟市立新津第三幼稚園

「大きく成長を促す方法」

園長　　川合　千尋

子どもの発達についての研究によると，人が発達する上で最も効果的なのは，その人ができそうでできない部分に教育的な働きかけをすることであるそうです。前回のお便りでも少し触れたことです。このことにつてもう少し詳しくお話をしたいと思います。

ふだん子どもたちによりよく成長してもらいたく，周りにいる私たち大人は様々な働きかけをしています。「もっとこうしたらいいよ。」「こんな風にやってごらん。」など子どもたちが一人でできそうなことはやらせてみて，うまくできなかったら手伝ってやるなどしながら成長を促します。これはこれでもちろん効果があります。ただ，どんなに子どもをよく見ている大人でも，大人は大人です。子どもの本当の困り感を実感することは難しいです。

ところが，その困り感を実感として分かっているのが少し上の子どもたちです。彼らは正にほんの少し前にその困り感を体験していています。あるいはついさっきまで体験しています。何をどう支援してあげればいいか体感として分かっています。そのため，彼らの支援は大変タイミングよく，なおかつ丁度いいものになります。

先に行われた運動会はもちろんのこと，遠足や様々な縦割り活動でその成果を実感しています。年長の子どもたちが年少の子どもたちに優しく手をさしのべ，年少の子どもたちがそれに促されて自立してできるようになったり，年長の子どもたちが他者への気遣いができるようなったり，お互いに大きく成長する場面を数多く見ることができます。こうした異年齢交流の役割はますます大切になってくると思われます。第三幼稚園だけでなく第三小学校とも連携してより積極的に実施していけたらと考えています。